

初心

2016年新春号

平成28年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮らしと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028(633)1111
http://www.tomikazu.com

「『申年』そして節目の年」

栃木県知事 福田富一



「知事と語る会」で抱負を語る福田知事 (11月16日) 於:宇都宮グランドホテル

選ばれる栃木づくり

新春を寿ぎますとともに、皆様の更なるご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

私もお陰さまで3期目の知事職を満了する1年となりました。「とちぎ創生」や「元氣発信」などを任期一杯取り組んで参りますので、引き続き宜しくお願い致します。

今年の「申年」は今までにない思いで迎えた。一廻り前の「申年」は、母親から「下着(パンツ)に【さる】と書いてプレゼントして」と言われ、真新しい白いパンツに夫婦共同作業で【さる】と書いて正月に両家の両親に届けた。母が言うには「親から聞いた話だが、申年に【さる】と書いたパンツを身に着けると長患いをしないと教えられた」とのことだった。この12年間、次の申年を家族全員元気で迎えることを願っていたが残念にも義父は天空の星となってしまった。

今年には正月に妻と両親への下着を見に行ったが、申年の赤い下着がブームで年配向けの下着が少なく選べなかった。申年の赤い下着が商業化されすぎた感じがするが、「申年に赤い下着を着ければ病が去る(さる)」「寝たきりにならない。長患いをしない。」「老後、下のお世話にならないですむ。」などの言い伝えがある。早く調達して申の日に届けたいと思っている。

2016年は各種計画が本格スタート

「まち・ひと・しごと創生」は、喫緊の課題である人口減

少の問題の克服と将来にわたる地域の活力の維持を目指し「とちぎ創生15(いちご)戦略」を昨年10月に策定した。人口減少克服戦略と人口減少社会適応戦略に着手し、本年は具体的な取り組みとして、新しい人の流れをつくる、結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるなどを開始する。

一方、栃木県重点戦略「とちぎ元氣発信プラン」も策定した。人口減少局面や超高齢社会への突入、経済のグローバル化、東日本大震災を契機とした防災意識の高まり、地方創生に向けた選ばれる栃木づくり、東京オリンピック・パラリンピックへの対応など大きな変化の中にある。

プランでは、「次代を拓く人づくり戦略」を第1の柱とする5つの重点戦略において、人も栃木も元気にする18のプロジェクトを積極的に展開することとしている。

さらに、すべての分野で選ばれる栃木を目指し、「ベリーグッドローカルとちぎ」を新たなキャッチフレーズとして掲げ、「とちぎブランド」の確立にオールとちぎで取り組んでいきます。

「いんど力」

とっておきの話

スカイベリー・栃木和牛・なすひかり(米)は本県のリーディングブランドとして県を挙げて取り組んでいる。

松の内6日〜12日まで、『とちぎのいいモノ発見』は、日本橋三越本店にて、餃子やゆばなど県内14店舗が来店し

人気を呼んだ。同時にスカイベリーのキャンペーンも行われ、日本橋いちごパークを設け、地元の小学生のつみとり体験や販売を行った。

初日にはドラマが生まれた。高齢の男性が1人で立ち寄り1個1728円(1600円)の昨年マレーシアでの販売単価に消費税8%のフレッシュ入りスカイベリーを買いたい求め、その場でガブリと食べた。「こんな美味しいイチゴは生まれて初めてだ。記念に容器とヘタを持って帰る」と言って帰られたとのこと。人生経験の豊富な方にイチゴ1つで感動を覚えてもらえたのである。これこそ地方創生の大きなヒントだと思った。

栃木県内でどれだけ感動し、栃木県からどれだけ感動を届けられるかにかかっている。それは私たちの創意工夫にかかっているということになる。

ブランド力

35位にランクアップ

ブランド力の調査には、現在の場所に住み続けたいか? 地域のもので買いたいと思うか?などの設問もあるという。栃木県民一人一人が、地域やそこにあるものを好きになるかどうかということになる。だから大目に見てくれとはいかない。そこには感動を覚えるための、汗と涙と努力の物語が求められるのである。さあ立ち上がり、一緒にできることから頑張ってみよう! 本年も宜しくお願ひ申し上げます。

魅力度ランクアップ

戦地に散った郷土の先人

福田知事 沖縄の戦没者追悼式に出席

「栃木の塔」に参拝する福田知事



10月26日、福田知事は沖縄県糸満市で行われる、栃木県遺族連合会(木村好文会長)主催の南方方面戦没者追悼式に参列するため本県の遺族団約50人と共に沖縄を訪問した。那覇市内のホテルでは同日夕、太平洋戦争末期の沖縄県警察部長で、県民の疎開に尽力した宇都宮市出身の荒井退造(たいぞう)(1900〜45年)を学ぶ研修会が企画され、同県元副知事の嘉数昇明(かかずのりあき)さん(73)が退造の功績を紹介。福田知事

と岩崎信県議会議長は、沖縄戦下で退造や島田知事が一時拠点とした那覇市真地の「県庁・警察部壕」を視察した。27日、同県糸満市摩文仁の丘の「栃木の塔」で執り行われた「第50回県南方方面戦没者追悼式」に出席した知事は「再び悲惨な歴史を繰り返すことがないよう、先の大戦で学んだ教訓と平和の尊さを次の世代に語り継ぐことが今を生きる私たちの責務」と挨拶。県出身南方戦没者をまつる「栃木の塔」に参拝した後、荒井退造ら殉職した沖縄県職員を慰霊する「島守の塔」や、退造らの「終焉之地」碑にも献花し、手を合わせた。

都道府県魅力度

ランキング 本県35位

民間調査会社のブランド総合研究所(東京都港区)は10月1日までに、「地域ブランド調査2015」を発表した。本県の都道府県魅力度ランキングが35位となり、前年の41位から6つランクアップし、過去最高の順位となった。一方、全国市町村の同ランキングでは日光市が14位で県内では唯一100位以内に入った。調査は20〜60代を対象に、インターネットを通じて47都道府県と1千市区町村の魅力度や認知度、まちのイメージなど77項目を質問。6月〜7月までに全国約3

栃木の更なる飛躍を目指して



知事 始球式で

本県のPR

うんまい栃木県シリーズ

神宮球場で9月4日行われたプロ野球ヤクルトー広島戦で、福田知事が始球式を行い、スタンドの大観衆から大きな拍手と歓声を浴びた。大田原市出身の真中満監督率いるヤクルトの対広島3連戦と連動し、本県の観光・物産をアピールする協

台湾で本県の魅力PR

福田知事は10月29日から31日、観光誘客のトップセールスのため台湾を訪問した。台湾は東日本大震災による原発事故の影響を理由に栃木を含む5県から酒類を除く県産食品の輸入を全面規制し、風評被害も残っており、規制解除も呼ばれる。29日、台湾・台北市に到着した知事は、高さ508メートルの超高層ビル「台北101」を訪れたほか、本県関係者との懇談会に出席した。30日は、台北市内のホテルで観光業界関係者向けの県観光説

明会・商談会を開催、知事は日光や那須といった観光地や温泉、特産のイチゴなどの魅力をアピール、「一人でも多くお越しいただけるようお力をお借りしたい」と呼び掛けた。一方、知事は、台湾の対日本窓口機関である亜東関係協会などを訪れ、「県の農畜産物は厳格な検査をしているので、早期解除に向けてお力添えください」と輸入規制の早期解除を要請した。31日は台北市内の商業施設でのイベントに参加し、現地の消費者に栃木をPR、帰国した。



左から、山口県議、斎藤県議、岩崎議長、亜東関係協会張仁久秘書長、福田知事、木村県議、山形県議

東京タワーで スカイベリーPR

高級イチゴのトップブランドを目指す本県産スカイベリーの本格出荷が始まったのに合わせ、県は12月10日、報道向けPRイベント「いちご王国とちぎ」クリスマス スカイベ

この日は試合に先立ち、福田知事が球団クラブハウスで、本県をPRする「とちぎ未来大使」の委嘱状を真中監督に手渡した。

「うんまい栃木県シリーズ」が4日から3日間、同球場内外を舞台に、本県の特産品や観光PR、グルメ販売など大々的に展開する。知事の始球式は目玉イベントの一つで午後6時、ヤクルトのユニホームを羽織った福田知事がマウンドに登場した。「まったく自信がない」と弱気だったが、本番では大きなゆつたりとしたモーションから力強い一球を投げ込み、「とちぎの存在感」をしっかりと示した。



このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきます。

地方創生の支援 国に要望

北関東磐越5県知事会議

栃木、福島、茨城、群馬、新潟の5県知事による「第11回北関東磐越5県知事会議」が7月15日、日光市内で開かれ、地方創生の取り組みを



左から、大澤正明群馬県知事、泉田裕彦新潟県知事、福田富一栃木県知事、橋本昌茨城県知事、鈴木正晃福島県副知事

進めるために自治体が柔軟に使える新型交付金や結婚や子育てを後押しする経済的な支援制度の創設など6項目を国に要望することを決めた。また、福田知事は、16年5月の主要国首脳会議「伊勢志摩サミット」に先立って行われる新潟市の農相会合や茨城県つくば市の科学技術相会合の開催会場で、5県が観光や農業などをPRできるブースの設置を呼び掛け、了承された。

安倍首相 被害を視察

知事、県庁で意見交換

安倍首相は9月12日、東日本豪雨の県内被災地を自衛隊のヘリコプターで視察したあと、県庁で福田知事



安倍首相(右)に県内の被害を説明する福田知事(左)

らと意見交換した。首相は知事に対し「被災者が一日も早く安心した生活に戻れるよう、生活再建に全力で取り組みたい」と述べた。

社会保障の財源確保を

政府主催の全国知事会議

11月27日、首相官邸で開いた政府主催の全国知事会議で安倍晋三首相は、「地方で人口を維持していくた

めに、しっかりと活性化しないといけない。地方創生なくして1億総活躍社会の実現はできない」と述べ、地方が抱える課題克服のため、地方創生施策を進めていく姿勢を示した。知事会側は地方創生施策の推進や、環太平洋連携協定(TPP)対策の実施を要請。会長の山田啓二京都市知事は首相に対し「地方があつて日本があるという思いを持って、リーダーシップを発揮してもらいたい」と訴えた。

福田知事は、「地方の人口減少問題を克服するためには、どこの地域でも安心して生活できる社会保障が不可欠」と述べ、財源確保と制度充実を求めた。安倍首相は「安定財源を確保する」と答えた。

食品輸入規制 解除へ前向き

台湾の対日窓口機関トップが知事訪問

東京電力福島第一原発事故の影響で、台湾で県産食品の輸入規制が続く中、対日交流窓口となっている亜東関係協会の李嘉進会長が11月24日、県庁を訪れ、福田知事と会談した。



亜東関係協会の李嘉進会長(右)と握手する福田知事

来訪は10月に知事が台湾を訪れた際、栃木を含む5県の輸入規制の早期解除を要請したことを受けて実現した。李会長ら一行は県庁を訪れる前に県農業試験場(宇都宮市)を訪れ、震災以降、県内で生産、販売する農産物のモニタリング検査の実施状況を視察。農産物から基準値を超える放射性セシウムは検出されていないとの説明を受けたほか、検査に使われている精密機器を確認。また県産ナシ「にっこり」を試食した。

李会長は会談で「食の安全確認を一つ一つ客観的に行っていて勉強になった。政府に報告し、近いうちに解禁できるようにしたい」と明言した。福田知事も「厳格な検査をしているので、早く働き掛けてほしい」とあらためて要請した。

10月2日、日光東照宮四百年式年大祭「日光の美を愛でるin日光東照宮」の着物ファッションショーが日光東照宮客殿で開催され、特別ゲストとして出演し、あいさつする福田知事



東奔西走の日々

- ◇7月17日 都内で、全国知事会社会保障常任委員会(福田富一委員長)／国の政策立案や予算編成に対する要請書案を取りまとめる。
- ◇7月17日 都内で「とちぎ企業立地・定着促進セミナー」開催／「本県への理解を深め、ぜひ立地を検討してほしい」と知事。
- ◇7月26日 黒羽藍染の浴衣姿でアンテナショップのオープニングイベントに出席／「日光から栃木の良さを発信してほしい」とエール。
- ◇7月28・29日 岡山県で全国知事会議／地方創生宣言を決定。「子育て負担の大きな軽減施策を」と知事。
- ◇7月29日 都内で「地方創生コンシェルジュ」と知事、初の意見交換／大手企業の地方採用拡大に向けた政府の働き掛けの強化を求める。
- ◇8月6日 全国知事会社会保障常任委員長として、病床再編などの国費不足の改善を求める要望書を提出。
- ◇8月30日 小山市で防災訓練／「東日本震災を踏まえた実践的な内容で意義のある訓練ができた」と訓示。
- ◇9月5日 日光市で元氣フォーラム／産業振興などで市民と意見交換。
- ◇10月17日 札幌市内で沿線5知事が意見を交わす「北海道新幹線知事フォーラム」／福田知事「広域周遊ルートを築くことが必要」と提言。
- ◇11月4日 県とジェトロ、都内で外資系誘致へセミナーを開催。
- ◇11月18日 都内でとちぎ未来大使と初意見交換会／知事「それぞれの提案を可能な限り政策に反映したい」
- ◇11月18日 全国知事会社会保障常任委員長として、子ども医療費補助で「ペナルティー廃止を」と国に要望。
- ◇11月23日 県公館で「輝くとちぎ人のつどい」／「互いに刺激を得て、さらなる活躍を」と知事が激励。
- ◇12月17日 都内で全国知事会議／社会保障の財源確保を国に求める。

聖地目指して「日光社参ウオーク」

福田知事「おのおの方、出立」



日光東照宮400年式年大祭を記念し、江戸時代に徳川歴代将軍が東照宮を参詣した約150キロのルートをたどるイベント「日光社参ウオーク」が10月24日、スタートした。

JR東京駅丸の内中央口前の「行幸通り」で行われた出立式には、実行委員会最高顧問の福田知事をはじめとする沿道自治体の首長が、烏帽子(えぼし)・直垂(ひたたれ)姿で登場。東照宮の百物揃(ひやくものぞろえ)千人武者行列で使用される甲冑(かっちゅう)や宇都宮城址祭り社参行列の装束を身につけた関係者ら総勢約500人が出席した。

福田知事は「江戸の昔に思いをはせながら、街道の魅力を再発見してほしい」とあいさつ(写真)。「おのおの方、出立」と、満身の気合を込めて宣言した。

社参ウオークは県、下野新聞社などの実行委員会(会長・八木沢哲男日光市観光協会)が主催。全行程を連続7日間で完歩する「本隊コース」(84人)と週末ごとに一区間を歩く「デイリーコース」があり、初日は約400人が聖地日光に向けて出発した。

本隊は10月30日にゴールの東照宮に到着。デイリー隊約1100人は12月6日に東照宮にゴールした。日光市日光総合会館駐車場でグラウンドファイナレが行われ、福田知事が参加者や関係者に感謝の言葉を述べ、延べ約3800人が参加した一大イベントを締めくくった。

ダ・カーポさんを迎えて

『トーク&コンサート』

毎年恒例の文化講演会が9月3日(木)、宇都宮グランドホテルを会場に約700名の参加者を得て開催された。

今年、ダ・カーポの榊原政敏さんと広子さんをお迎えし、『トーク&コンサート』

『いいことだけ考えよう』と題して講演頂いた。

お2人の出会いからデュオ結成、結婚、そして現在に至るまでをエピソードを交えてお話しされ、素敵な歌声も披露された。《結婚するって本当ですか? いいことだけ考えよう。》広子さんが難病の変形性股関節症を患い、入院中に綴った「いいことだけ考えよう」という詩にメロディー



2000名の参加者を迎えて

知事と語る会

恒例の『知事と語る会』が11月16日(月)、宇都宮グラ

をつけた歌には『信じることで始まり 信じるのがすべて』という、苦難を乗り越え、明るく前向きに生きようとする広子さんの強い意志が込められていた。優しく温かい歌声が心に響くお2人でした。

ンドホテルを会場に、雨天にもかかわらず200名余の参加者を得て開催された。

福田知事は直近1年間の県政のあゆみや現状を報告した後、「人口ビジョン」と「地方創生総合戦略」と題し講演。

栃木県は2060年に総人口150万人を確保するという大きな課題があり、「とちぎ創生15(いちご)戦略」を本年始動したことや、栃木県のブランド力を高め、若い人が地元で正社員として働き、安心して結婚、子育てが出来る環境をつくるのが地方創生にも結び付くと述べ、そのために、政治・経済界や教育・医療の場、更には多くの皆様のお力添えを頂いた上で、共に目標達成への道を歩んでいきましょう、と力強く結んだ。



1500名の参加者を迎えて

もちつき大会

12月6日、第33回『もちつき大会』が今宮公園で開催され、つきたての餅、けんちん汁、しぼりたて牛乳、綿あめのほか、豆乳ドーナツ、ポップコーンが振る舞われた。

『福田家の茶の間』

知事就任以来、元旦は夫と共に皇居・正殿松の間での「新年祝賀の儀」に参列している(写真は皇居前広場にて)。

昨年は、11月12日に開かれた赤坂御苑での秋の園遊会、12月23日の天皇誕生日にもご招待頂き参列した。



特に園遊会では受付で宮内庁の職員から「本日は天皇陛下からお声掛けがございませう」との話があり、2人とも一気に緊張した。所定の場所に案内され、段取りを伺って

飛んでいた。私はこの光景を生涯忘れないだろうと思った。天皇皇后両陛下、皇太子さまをはじめ皇族方からお声を掛けて頂くという大変貴重な経験をさせてもらい、夫に「ありがとう」と感謝した。

ところで、昨年10月に二男と長女と4人で男体山に登った。夫と「何歳まで登れるか挑戦しよう」と始めてから今年で15回目である。忙しさにかまけて全く準備をしなかった私は、みんなに迷惑は掛けられないと、気力で登ったが、まさしく挑戦であつた。

から「各テントに料理が用意されていますので時間までゆっくり過ごして下さい」と言われたがそんな余裕はなかった。天皇陛下のお出ましをお待ちする間、たくさんのカメラと報道関係者を前に、ふと空を見上げると、雲つない真っ青な空の下、御苑の森に鳥が

夫は私を「自分の体を大切にしない」と怒ることがある。私はそんなつもりはないのだが、これから10年、20年と一緒に歩いていくには、日頃から健康に気をつけ足腰を鍛えておかなければと反省しつつ、気持ちも新たに新年を迎えた。本年も宜しくお願い致します。

編集後記

昨年の知事も増して多忙な日々を送ったことが記事の多さからも見て取れる。紙面の都合で全部扱えないのが残念であるが、その結果として栃木県の魅力度アップにつながったのだろうと推測することもできる。

半年間の出来事を分り易く纏めました。ご一読下さい。

◆福田富一後援会総連合会事務所
◆福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(633)1111
FAX 028(633)1110

